

事業名	機構集積支援事業
-----	----------

総事業費	961 千円
------	--------

### ① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農地利用の最適化

### ② 実施 (Do)

事業の意図	農業生産力の増進と農業経営の合理化を図る。	
事業の実績 と 成果	取組内容	農業委員及び農地利用最適化推進委員を対象に農地の利用状況確認のための研修会を開催し、市内農地の利用状況調査を行い、遊休農地所有者に対し利用意向の確認を行った。
	成果	遊休農地化している農地所有者へ利用意向確認をすることにより、貸出希望農地の確認ができ、担い手等への集積へとつながった。また、荒廃農地に対し、非農地通知を発送し農地以外への地目変更を促すことにより、正確な農地情報の整備つなげることができる。

### ③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	優良農地については、日頃の見回りや農家への訪問により、遊休農地化する前に担い手等への貸し出しに結び付けていく必要がある。 交通の便が悪い農地や狭小農地など耕作が困難となるような農地について、今後守るべき農地なのか所有者の意向を確認し、非農地判断へ結びつける。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	農地利用意向調査の結果では、農道整備の悪い農地等については、「貸してはいるが、借りてがない」状況にあり、農地の遊休農地化が加速して進行している。 今後においては、農林水産課と連携し、大規模農家や企業の参入を推進すべく、新たな事業の模索が必要と考える。 集積できない条件不利地域においては、「人・農地プラン」の実質化の検討中で、遊休農地解消に繋がる新品目の導入など地域の営農体制を整備する時期に来ている。 併せて、今後農地に該当しない土地の非農地判断を計画的に進めていく。

### ④ 改善 (Action)

2020年度方向性	農地中間管理事業を利用した担い手への農地の集積・集約
-----------	----------------------------

#### 【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	遊休農地解消対策事業
-----	------------

総事業費	1,457 千円
------	----------

### ① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	農業の振興
	基本事業名	農地利用の最適化

### ② 実施 (Do)

事業の意図	農業生産力の増進と農業経営の合理化を図る。	
事業の実績 と 成果	取組内容	農業委員会だよりによる事業の紹介や、農業委員及び農地利用最適化推進委員の農家への戸別訪問により農地の出し手・受け手のマッチングを行い、遊休農地 j 化した農地の再生を促す。
	成果	事業利用により461aの農地を再生し農地の有効利用が図られたことで、優良農地の確保と農業生産力の増進及び経営の安定化に繋がった。

### ③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	優良農地の再生により有効利用が図られるが、再生後の農地が継続して利用されるよう見回りや指導の徹底が必要となる。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	<p>遊休農地が増加している中、農業委員会法により、遊休農地の発生防止と早期解消の取り組みは農業委員会の必須事務とされており、今後一層強化する必要がある。</p> <p>また、国県の補助事業に類似事業がない中、本委員会独自の補助事業で規模拡大志向農業者から申請の多い事業であるが、評価指数は未達成である。</p> <p>その解消には、重機等を利用するため多額の費用を要することから、補助上限の見直しの要望があることから、当該事業助成金交付要領の改正と併せて、各種会合や農業委員会だより等での更なる事業 P R を図る必要がある。</p>

### ④ 改善 (Action)

2020年度方向性	遊休農地の解消により農地の有効利用を目指す。
-----------	------------------------

#### 【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明